

教室の窓から

第6回全国小中学生書道チャンピオン大会課題

毛筆・半紙の部

小・1年

アレ

小・2年

大山

小・3年

月光

小・4年

空手

小・5年

知事

小・6年

前進

六年

第七回書道チャンピオン大会を前にして

小学校や中学校で学んでいる皆さんが文字を書く学習は、「国語科」の中に位置づけられています。国語科「書写」といいます。そこで身につける内容は「文字を正しく整えて書くことができるようになる」ということです。文字を「正しく」書くということなので、そこには一定の「きまり」（ルール）があるということです。

その「きまり」は、どんなことがあるのかを自分の学年にあてはめて少しずつわかり、できるように学習することです。文字を正しく書けば、字形は整います。では、どのようなことを考えればよいのでしょうか。

国語の教科書で見かける文字は「教科書体活字」といいます。活字なので、文字の形はほぼましかくです。文字の大きさもほぼ同じにしています。その文字を、きまりにあてはめて正しく書くことが書写の学習で最も大切なこととなります。大切なことを少しまとめてみましょう。漢字について書く順序にそって考えてみます。

- (1) その漢字を作っている「点画の名前」を正しくつかむことです。
- (2) 手で書くのですから、どのような「文字の形」になるかということですが。
- (3) そして、どのような順序「筆順」で書けばよいのかということですが。
- (4) また、その文字の点画はどのような「点画の組み立て」になっているかを考えます。単体文字の場合はこのように考えます。

- (5) さらに、左右や上下、内外などの「複合文字」においては「部分の組み立て方」をどのようにすればよいのかを考えます。
- (6) 最後に、文章全体については、「文字の大きさ」や「配列」をどうすればよいのかを考えて全体をまとめます。

第六回大会の課題を例に具体的に考えてみます。

大 II 上下や左右に横画や縦画がないので「文字の形」は「円」になります。

月 II 左側に縦画があるので「左払い」から書き始めます。

光 II 最後に「曲がり」があるので「横画」はあまり長くないようにします。

手 II 最後に「反り」があるので、それまでの左払いや横画が長すぎないようにして長さをほぼ同じにします。

事 II 横画がたくさん並んでいるので「画間」は同じにします。同じに見えるためには横画の線の太さはそろえます。どの横画を長くするかは、折れの部分に交わっている横画を最も長くします。進 II 内外の組み立ては外から内に書きますが、しんには「右払い」が目立つので、内から書きます。

このように、文字を正しく書くための「きまり」を学習した「文字」を、他の文字に応用して書く力が求められます。今回の決勝大会で、課題に挑戦するためのヒントにしてください。

会長 松 寄 典 孝 (六郷)